



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

1998～99年度 会長賞

国際ロータリークラブ会長 ジェームスL.レイシー

ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基盤として、奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある：

- 第1 奉仕の機会として知り合いを広めること；
- 第2 事業および専門職務の道徳的水準を高めること；あらゆる有用な業務は尊敬されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること；
- 第3 ロータリアンすべてがその個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
- 第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること。



第544回 平成11年 3月 5日(金)

〔本日のプログラム〕

1. 点	鐘	次回予告
2. 国 歌 斉 唱		★ 3月12日(金)
3. ロータリーソング		夜間例会
「私手わないで」		会員卓話
4. 「四つのテスト」唱和		吉田 康一郎君
5. 食 事		
6. 会 長 の 時 間		★ 3月19日(金)
7. 幹 事 報 告		ゲスト卓話
8. 委 員 会・報 告		
9. 会員卓話 徳丸彰一君		
10. 3 月 セレモニー		
11. 点	鐘	

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週金曜日(12:30~13:30)	会 長	加藤 仙之
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	福井 輝文
事務局	宮崎郡佐土原町大字下郷阿3887-17	幹 事	吉田康一郎
	☎880-0212	会 計	恒吉 正志
	☎&FAX0985-73-7170	会 員 賬	垂水 敏雄

第 5 4 3 回例会記録

(1999. 2. 26)

☆会長の時間

会長 加藤 仙之君

皆さん今日は、先週は休ませて頂きまして有り難う御座いました。四国に渡りましたが、家を午後11時30分に出発し10号線を北上し、野津町から臼杵港へ3時間30分で着きました。夜間走行でありましたので車は順調に流れまして、ただ宗太郎峠に掛かりますとあちこちで地球を掘り起こしていましたが、これもいま政府が景気対策として行っています公共事業であろうかと思えます。宮崎県でも清武町、西都市間の高速道路の建設が行われています。この様な工事には大きなゼネコンが請負、地元業者には工事はまわらずお金はみんな中央に行ってしまうのではないか、地域の景気対策となるのか。

また宮日の窓の覧に、国が出資する地域振興券について色々取りざたされているが、果して商品券は、その地域にどれだけ貢献するだろうかと疑問に思う。商品券の行方は100%近く大型店に吸収され売り上げ金は県内にとどまらず、ほとんど県外に流出の心配はなかろうか、商店街の衰退に歯止めを掛けさらに活性化への軌道に結びつく商品券でありたいと思う、と言う様な記事のことを

思いながら車を走らせ、宗太郎峠を越えました。

宗太郎峠は北川町から三重町経由の新道が出来ていて行き交う車もほとんどなく予定どおり港に着くことが出来ました。

午前4時05分のフェリーに乗り八幡浜港から昼夜トンネルを通り内子町の病院に午前7時30分に着き、さっそく叔父との面会をいたしました、昨夜は意識が無くなり入院しましたが、朝は意識も戻り話しも出来る状態までになっていました、家内共々ホットいたしました所です。翌朝早く内子を出まして、夕方には我が家に着きました。

19日のプログラムにつきましては、講話を戴きました山脇先生を始め、副会長、幹事さんに大変お世話になりました、誠に有り難う御座いました。

☆幹事報告

幹事 吉田 康一郎 君

例会変更通知

3月12日(金) 職場訪問の為、場所
宮崎県工業技術センターに変更

宮崎西RC

高鍋RC 3月プログラム予定表

3月 4日(木) 月初めのセレモニー
会員卓話(献について)

3月11日(木) 会員卓話

3月13日(土) ローターアクトの日

3月18日(木) 新入会員卓話

3月25日(木) 卓話

☆出席報告

委員長 宮原 建樹 君

会 員 数 25名
例会出席者数 19名
出 席 率 76%
マークアップ者数 3名
修正出席率 88%
欠 席 者 名 神崎、徳丸、佐野、林

次の例会は3月になります。

第1班 垂水君 第2班 郡司君
第3班 福井君 第4班 加藤君
第5班 林(厚)君

以上の皆さんが出欠当番になります。
よろしくお願いいたします。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

ハッピーボイス

6ヵ月無欠席の表彰を有り難うございました。
今後も無欠席が続けられるようつとめたいと思います。

正岡 文郁

初めての受賞、又、生活に密着する料理バサミ、家内が大変喜びました。

加藤 仙之

6ヵ月無欠席の記念品を頂き、厚くお礼申し上げます。

今後共、出来るだけ出席することに努力したいと思います。

梶田與之助

6ヵ月無欠席のお祝い、有り難う御座いました。今後も1年間無欠席に向けて頑張りたいと思います。

田村 勝二
浜田松太郎
山脇 忍

☆会員卓話

藤 堂 孝 一 君

99年度の住宅税制では画期的な『住宅ローン控除制度』

(15年の長期にわたって最高587万5000円控除)が実現、さらに譲渡損の繰り越し控除制度は住民税への適用が可能になったほか、住宅ローン控除制度との併用が認められ99年にかかる期待は非常に大きいものがある。

現に住宅金融公庫の第3回受付も、金利の先高感で45%も申し込みが急増している。

しかしこの先、住宅産業界は非常に厳しい見方もあり、楽観はできない状況である。

小子化で人口の増加が望めない状況で、新しい世帯の増加も望めず、新設住宅着工数の増加は増加しないと考えられます。そうした中で立て替え住宅及び、リフォーム関連の需要が望められると思われれます。

私ども、住宅関係の仕事をしている業者も、今後の変化に対応していくためにもいろいろな努力が必要ではと、思う毎日です。

外国では、住宅に対する考え方が違っていています、例えば生活している状況に合わせて、住居を選定していると聞きます。新婚の時、子供の人数、老後の生活では、世帯人数が違ってきます、そうした状況に応じて、住宅を選択している。

日本では、最初から子供部屋を2～3部屋一度に計画して建築している状況です。家を造るのを、一生一度の考え方で、そこにつき込む経費の度合いは結構高いのではないのでしょうか。

今後は、施工者の名前により取引が違ってくると思われる、そう思うと生半可な仕事はできなと思われる。

記

住宅ローン控除試算例 (3300 万円の場合)

年収700万の場合

現行制度では 6年の控除期間で合計
153万8千円の控除

新住宅減税制度では 15年の控除期間

合計288万6千円の控除

☆ 『仕事の原点』

(3人の旅人……より)

社員研修資料

伊 東 忠 寛 君

ある西洋の物語であります。

旅人が大寺院の建設現場を通りかかったとき、3人の男が一生懸命に働いているのを見かけました。

そこで旅人は、まず、石を並べている男に『あなたは今、何をしていますか』と尋ねました。。するとその男は『私は石を並べています』と答えました。

次に、その旅人は、ガラスを切っている男に同じことを尋ねました。ところがその男も『私はガラスを切っています』と答えました。

最後に旅人は、土を運んでいるみすぼらしい男にも同じことを尋ねました。

その男は、『私は今、大寺院建設のお手伝いをしています』と答えました。

この例え話は、組織で働く人間の考え方を述べているものであり、会社という組織で仕事をすすめている私たちにとっても、意味の深い話であると思います。さて、会社の組織は大勢の職員で構成され、それぞれの分野でその分担に応じて働いています。

ところが、人が多くなり、受け持ち分担とか持ち場持ち場……ということになると、さきの物語のような石を並べたり、ガラスを切ることをだけを考え、目的意識のないワンパターンの繰り返しと経過に満足してしまう人が出てきます。

こうなると、いくら人数をかけたなり、時間や金をかけたとしても「大寺院建設」というような目標を達成することは期待できないのであります。

「組織は人なり」という言葉があります。組織がその目標を達成するためには、組織を構成している一人一人が、真に組織の目標と自分の役割を完全に理解して、目的意識を持って積極的に行動する意欲（やる気）と、共通の認識を持った秩序ある行動が伴うことが絶対の条件であります。

私たちの仕事は様々であります。

しかし、どの一つをとっても「お客様の期待と信頼にお応えする」という責務を達成するための具体的な業務であることはいまでもありません。

それだけに、どんな仕事を行う場合でも、私たちは常に『仕事の原点』が何であるか、を忘れてはならないのであります。